

富山県総合教育センタ・

No.1	28		2
令和	元年	6月2	21日

富山市高田525

E-mail:cen	er@tym.ed.jp(代表)	bj
URL:http:/	/center.tvm.ed.ip/	

	目	次		
●巻頭言 …				1
●今年度の研	修事業よ	ŋ ·····		2
●調査研究事	業の概要			3
●特別寄稿(徳橋客員	教授) …		4
●随想 ·····				4
●研修顧問・学力向	可上アドバイ+	ゲー・客員教授	の紹介・・	5
●第36回高等学	校生徒海外	派遣事業帰国	報告・・	5
●連載「知っ	て得2019			6

教職員研修における「指標」の活用

所 長 森田 喜邦



総合教育センターのより効果的な企画や運営のために設置されている富山県総合教育センター運営協議会の、今年度第1回目の会合が4月下旬に開催されました。今回の協議題は「教職員研修における指標の活用についてー研修アンケートの取組からー」でした。

ここでいう「指標」とは、平成 30 年 3 月に富山県教育委員会が教員のキャリアに応じて求められる資質を確認し、生涯にわたって学び続ける教員が育つことを目指して策定した「富山県公立学校の教員等の資質向上のための指標」のことです。

その指標の策定を受けて総教セでは、年次研修や専門研修等の中身を、指標にある資質能力のうちのどれを育成するものかで分類するとともに、平成30年度は中堅教諭等資質向上研修(旧11年次研修)を取り上げて、研修の前後に指標の内容項目についての受講者自己評価アンケートを実施し、どれくらい資質能力の向上が図られているかを調べてみました。

その結果、成長したと思う項目として「自己研鑽に努め、探究心を持って自主的に学び続ける」や「危機管理

意識を持ち、教育活動を実践している」などがあり、逆に評価が低かった項目としては「特色ある学校づくりに向けて OJT を実践するとともに企画調整の力を発揮して、組織としての教育力を高める」や「自校や地域の特色に応じたカリキュラムを編成する」などがあることが分かり報告しました。

協議では、総教セで実施している研修は指標にある資質能力の全てを網羅しているわけではないことや、研修で身に付けやすい能力と身に付けにくい能力があること、評価の数値は絶対値であるとは限らず、より詳細で客観的な分析が求められること、職場の年齢構成や分掌の関係で成長を実感しにくい項目があることなど、いろいろとご指摘いただきました。このように中堅教論等資質向上研修(旧11年次研修)一つを取り上げてみても、指標を活用することでこれまであまり意識していなかったことがいくつも見えてきました。

総教セではこれからも指標を活用して研修の成果を検証するとともに、各学校と連携して教職員それぞれのおかれた状況に応じた研修ニーズを的確に把握しながら、本県教育を支える教職員の資質向上のお手伝いをしていきたいと考えています。

2019年度初任者研修会・新規採用教職員研修会より



講義「学校における人権教育」



講義「マナーアップで魅力づくり」



グループ協議「授業の進め方」

News 教育資料の貸出や相談にご利用ください。

センターの教育資料室には 9 万 4 千点に及ぶ豊富な教育資料をとりそろえています。目的に応じた資料の検索、閲覧及び貸出をしています。相談にも応じます。お問合せは、(TEL 076-444-6169)まで。利用時間 平日 8:30 \sim 17:00

総合教育センター 今年度の研修事業より

教育研修部

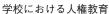
若手教員研修(初任者研修会)‧新規採用教職員研修会

高等学校・特別支援学校学校教員(4/3)、小・中学校教員(4/11)、学校栄養職員(4/18)を対象に開講式が行われ、今年度の研修会が始まりました。

4月25日には、全校種での共通研修「教職員としての自覚と使命2」が行われ、教職員としての接遇の仕方や情報モラルについて学びました。

各校種で年間計 $12 \sim 15$ 回の研修が、センターや協力校等で行われます。







接遇の研修

○今後、次のような研修を行っていきます。



水泳指導法



宿泊研修



学習指導



ICT活用

八 科学情報部

理科実験・観察訪問研修

市町教育センター・各団体主催の理科研修会を「理科実験・観察訪問研修」としてサポートします。 小学校の先生方を対象として、市町教育センターや各団体主催(小教研理科部会など)の研修会に所員が出向き、実験・ 観察の理科指導が向上するよう支援しています。研修に際しては、事前に希望する内容の打合せをしてテーマを選定

するなど、先生方のニーズに沿うよう配慮しています。 昨年度は、22 会場で実施し、延べ 569 名の先生方が受講しました。研修で製作し

た教材やセンターが紹介する開発教材は、授業ですぐに活用できるものが多くあり、 参加した先生方からも好評を得ています。

本年度は、先生方から要望の多い教材・実験器具の基本的な取扱いや教科書と関連 する実験・観察の研修項目も充実させる予定です。

※単独校でこの研修を希望する場合は、まずは市町教育センターにご相談ください。 ※申し込みは実施予定日の1か月前までにお願いします。

(お問合せ: 科学情報部 理科教育室 TEL 076-444-6165 まで)



葉脈標本作り

♥ 教育相談部

この講座は、児童生徒に寄り添い、深く理解し、成長を願って自己成長を支援する学校カウンセリングについて学ぶ講座です。学校カウンセリングについての基礎的な内容を学ぶ「教への証券・面談や集団へのはたらきから、動かり、事例を基にした児童生徒理解、スでものはならます。どのコースからであるでき、複数のコースを受講することも可能です。日々の児童生徒とき合い方や関わり方を振り返り、これからにつなぐ内容となっています。

学校カウンセリング講座

教育相談スキルアップコース

児童生徒や保護者との多様な面接・面 談の進め方について学び、教育相談の スキルアップを図ります。

人間関係づくりコース

児童生徒の好ましい人間関係を育む、 個が生き共に育ち合う学級集団づくり への支援について学びます。



教育相談基礎コース

児童生徒理解を基本に、面接・面談や個や 集団の状況の理解とはたらきかけについて 学校カウンセリングの基礎的内容を総合的 に学びます。



事例に学ぶ児童生徒理解コース

具体的な事例の検討を通して児童生徒 理解を深め、問題へのより効果的な支援について学びます。

チームによる支援コース

児童生徒理解を基に、校内・校外の援助資源を活用し、ケース会議等チームによる組織的な支援について学びます。

夕 教育研修部

「主体的・対話的で深い学び」の充実を 図る指導に関する調査研究(2年次) 一対話による探究的な言語活動の視点から一

昨年度から「探究的な言語活動を取り入れる ことで、対話による深い学びの充実を図ること ができる」と仮説を立て、調査研究を進めてい ます。

本調査研究では、「対話による深い学び」とは 「対話を通して根拠や理由を基に論理的に考え ること」と捉えています。主にグループ等の少 人数による話合いの場を研究の対象とします。

子供が対話の中で「聴く=インプット(知識を得る)」「話す=アウトプット(知識を活用する)」活動を通して、個の学びが深まっていくことを目指しています。

昨年度、「学習課題」「対話の環境」「評価」の3つの視点で授業改善を行ったところ、「子供と関わりの深い教材を活用した学習課題の設定」「対話を『聴き合う場』にするための質問し合う子供の育成」「自己評価・相互評価カードの活用による対話スキルの育成」等の取組に成果がありました。

2年次となる今年度は、「対話の場を設定する際には、ねらいを明確にする」「対話スキルを教科の資質・能力の育成に生かす」等の手立てを取り入れ、授業改善を進めます。

八 科学情報部

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた 学習の在り方に関する調査研究(2年次) 一観察·実験を取り入れた

課題解決型学習を通して-

令和2年度より、小学校では新学習指導要領が完全実施されます。 その総則の中で「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、(中略) 児童に生きる力を育むことを目指すものとする。」と示されています。また、平成30年度全国学力・学習状況調査(小学校理科)では、「観察、実験の結果を分析し、考察した内容を記述することに課題がある。」と分析されています。そこで本調査研究の目的は、観察・実験を課題解決型学習として進めていくための要件(必要な条件)や要点(重要なポイント)を整理し、それらの要件や要点を活用した授業実践を行うことで、問題解決の力を育成することとしました。

1年次は、観察・実験を課題解決的に進めていくための要件や要点を「主体的・対話的で深い学び」の視点で整理しました。整理した要件・要点を基に授業を計画・実践することで、児童の学習への取組が向上することを明らかにしました。

2年次は、1年次で整理した要件や要点を活用して授業計画・実践に取り組むとともに、観察・実験を課題解決型学習で進めることが児童の科学的な思考を広めたり、深めたりすることを明らかにします。

本調査研究で得られた成果を、日頃 の先生方の授業に役立つよう発信して いきます。



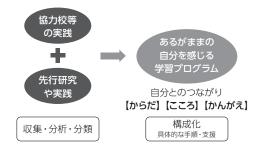
② 教育相談部

児童生徒の自己適応感を促す心理教育プログラムに関する調査研究(1年次) - あるがままの自分を感じるための学習プログラムの開発-

児童生徒を取りまく環境は、社会の急激な変化によって一層多様化、複雑化しています。そのため、児童生徒が、その環境に適応することにとらわれ、なかなか自分らしさを感じられない状況があるのではないかと考えました。自分の周りで起っていることに対してあまりにも影響を受けすぎて、あたかも自分自身そのものだと感じ、自尊感情が不安定になりがちです。 衝動的に行動したり、漠然とした不安を感じたりしてしまう場合もあります。

そこで、本調査研究では、学校現場で行われている様々な取組を自分とつながる視点から分析・分類し、自分らしさを感じる学習プログラムを開発します。【からだ】とのつながり、【こころ】の動き、自分が大切にしている【かんがえ】から児童生徒が、あるがままの自分とつながることを感じられるようにします。学校現場では、自分の気持ちを振り返ったり、自分のよさを探したりするなどの自分を見つめる様々な取組が実践されています。研究協力校での実践を基に、どんなはたらきかけがどのような効果を生んでいるのかを探り、どの子にとっても分かりやすく取り組みやすいかたちをつくります。開発した学習プログラムは、学校支援訪問研修等を通して学校現場に提供します。

学習プログラムの開発イメージ



特别寄稿

教育をめぐる理念と現実

客員教授 徳橋 曜



「教育」とはどうあるべきなのか、 何百年も昔から、教師と呼ばれる立 場の人々は問うてきました。このセ ンターの先生方も折に触れて考える ことがありましょう。自分の描く教

育の理想やその方法について具体的なイメージを欠片 も持たずに、教育を行うことはできません。一方で、 目指すべき教育と現実には大きなギャップもありま す。中央教育審議会や有識者会議の指摘や提言に沿っ た文科省の方針で、「主体的・対話的で深い学び」や 小学校における英語教育やプログラミング教育の導入 も決められましたが、もっともなものも多い一方、教 育現場の状況や実効性をどこまで考慮しているのかと 疑問に思うこともあり、逆に教育現場は施策の意味に 沿うことができているのだろうかと感じることもあり ます。私の研究分野に関わることで言えば、高校の歴 史教育に導入予定の「歴史総合」の具体的なあり方が どうにも見通せません。世界史と日本史を敢えて一体 化させて近代史を教えることは確かに有意義です。し かし、近現代史中心の類似したコンセプトを持つ「世

界史 A」の現状を思うと、この歴史教育の大きな変化 に大学側が入試レベルでどう対応するかがはっきり見 えない中、大学受験という「成果」を問われる高校の 現場で本来の趣旨をきちんと踏まえた授業がどこまで できるのか、不安もあります。今までにないコンセ プトに沿って歴史を教える教師の力量も問われま

教育は国家百年の計などと言われますが、数値目標 や論評に踊らされる今の教育に百年の計たる重みはあ るでしょうか。目前の問題への対処は大事ですが、後 ろから追い立てるような教育政策には疑問も感じま す。大学教育にしても、日本の研究・大学に対する世 界的な評価が落ちていることが指摘され、改善の必要 が主張されていますが、国立大学への運営交付金を毎 年 1% ずつ削減し、数値目標を提示して短期的な成果 で金をやるぞと大学間の競争を煽るような施策で、研 究・教育の基礎的な水準は上がるのでしょうか? そん な疑問と無力感を感じつつも教員養成の一端を担う中 で、幼稚園から大学までどういう教育を目指すのかを、 今こそ考えなければいけないと思う日々です。



理解する(understand)

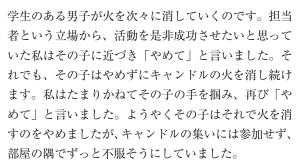
教育相談部長 中川 邦章

平成 15 年度から 20 年度まで教育相談部に勤務し、 今回2度目のご縁をいただきました。カウンセリング について浅学だった当時、研修講座の講師をお願いし た横浜国立大学教授、犬塚先生を囲んでの夕食会で、 先生から次のようにご指導いただきました。「『理解す る』を英語で何と言いますか?『アンダスタンド (understand)』ですよね。つまり、子供たちよりも下 に立って見るつもりでないと、理解はできないです よ。

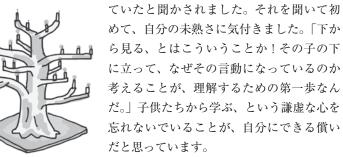
大人 (教師) は、つい子供たちを自分の目線 (上か ら目線)で理解しようとしている事、そしてカウンセ リングに関わる者として必要な初歩的スタ

ンスについて教えてくださいました。

その数か月後、登校しづらい子供とその 家族を対象にしたキャンプでの出来事です。 当日夜は雨天のため、予定していたキャン プファイアーを室内でのキャンドルの集い に変更しました。一人一人が火のついたキャ ンドルを木の台に置きはじめたところ、小



後日、その小学生の母親から、「僕はキャンドルの 火が木の台に燃え移るんじゃないかと心配して消して いただけなのに、それを止められて嫌だった。」と言っ





研修顧問・学力向上アドバイザー・客員教授の紹介

今年度は研修顧問と学力向上アドバイザーそれぞれ1名と、富山大学人間 発達科学部から4名の客員教授が着任されました。

研修や調査研究事業等において助言をいただくことになっております。

山﨑 弘一 研修顧問

吉江 友秋 学力向上アドバイザー

徳橋 曜 客員教授 (代表、企画調整部)

增田 美奈 客員准教授 (教育研修部) 土井 徹 客員教授 (科学情報部) 和田 充紀 客員准教授 (教育相談部)



第36回富山県高等学校生徒海外派遣事業帰国報告

企画調整部企画課 研究主事 往蔵 健

平成 31 年 3 月 3 日 (日) から 3 月 14 日 (木) までの 12 日間の日程で、派遣団は、台湾とベトナムを訪問してきました。ベトナムへの訪問は 36 回を数える本事業の中でも今回が初めてでした。「台湾・ベトナムと富山県の経済・文化交流・観光振興 – 元気とやま新時代を担うグローバル人材の育成 – 」を研修テーマとし、県内の高等学校・高等専門学校から 20 名 (男子 7 名、女子 13 名) が参加しました。

1 初めてのベトナム訪問

今回、海外派遣事業として初めて訪問したベトナムでは、訪問の初日にホーチミン市内のレホンフォン高校を訪問しました。ホーチミン市内のバイクの交通量に面食らい、初めての訪問先ということで最初は緊張していた団員たちでしたが、明るく積極的に英語や日本語で話しかけてくれるアオザイを着た現地高校生にエネルギーをもらって異文化コミュニケーションのスイッチが入り、自ら個人研修テーマについて質問したり、富山や日本の紹介をしたりと、積極的にコミュニケーションが図れました。その勢いで、その後の交流先でも手を上げて質問したり、相手に話しかけたりすることができました。

在ベトナム日本国大使館では、日本とベトナムの歴史、文化、政治等における両国の関係について職員の方から学びました。

富山県発のグローバル企業である YKK ベトナム社では、工場見学や企業概要説明はもちろん、現地でのさまざまな苦労や工夫についてお聞きしました。

富山県人会の皆さんとの夕食会では、海外で働く大変さや楽しさ、やりがいについてお話を伺い、世界に視野を広げるよう大いに刺激を受けました。

「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟する世界自然遺産のハロン湾では、その海と奇岩からなる美しい景色に感動すると同時に、現地ガイドより環境保全への取組について学びました。



ベトナム・レホンフォン高校にて

2 ふるさと富山紹介と国際交流

ベトナムではレホンフォン高校と日越大学、台湾では内湖高級中学と東呉大学を訪問し、英語による「ふるさと富山紹介」の プレゼンテーションや、恋ダンスと八尾おわら踊りの披露、小グループでのディスカッションで学生たちと交流をしました。 また、内湖高級中学では2泊3日のホームステイをしました。学校と家庭の両方で同年代の若者やホストファミリーの方と寝 食を共にすることで、相手の国や文化、言語、日本への思いを理解すると同時に、日本や富山、自分について積極的に自己表現 できるようになりましました。

【帰国後のアンケートより】

- ・他国から見て日本とはどういう国なのかというのが分かり、また、日本に は知られていない問題があることも分かりました。同時に、日本の魅力に も気付くことができました。
- ・日本語と英語の 2 か国語を話せるのは当たり前で、3・4 か国語を話せる ようになって、国際社会に携わる仕事がしたいと思いました。
- ・9月の事前研修から現地研修までの半年間、他校の生徒と一緒に活動したことで多くの面で刺激を受けました。



内湖高級中学でのふるさと富山紹介

連載

知って得2019

Science Cafe

ニホニウム Nh

科学情報部 研究主事 藤本 聡司

昨年度(H30年度)より、高校物理・化学の教科書の周期表にニホニウムを含む118番元素までが掲載され、新元素の発見が話題として取り上げられるようになりました。平成のビッグニュースでもあった日本による新元素の発見、それは(我々の生活には直接関係しませんが、)物質の存在にかかわる重要な基礎研究です。

原子番号113番号113番ニウ亜速30番子をまっては30原子程番をまってでは30月程番の10%、マスの10%の10米で素では30+83=113のでは30+83=113のでは、こは、これでは、10の一般の10のでは、10の一般10のでは、



粒子加速器の模型

子の芯と芯が合わないと起こりません。これは1秒間に300万回の衝突を200日続けて1個検出できるかどうかという気の遠くなるような作業が必要です。10年近い歳月をかけてようやく3個のニホニウムを発見し、それが国際的に認められました。まさに研究者の不断の努力の末の偉業でした。

昨年、この大発見を行った「RIビームファクト

リー」がある埼玉県和光市の理化学研究所を見学する ことができました。

地下への長い階段を降りた先に巨大な空間があり、 様々な装置が並んでいました。

超重元素の研究では原子同士を衝突させる加速器にばかり目が行きますが、実は、新元素ができたとしても1000万分の1ミリのさらに10万分の1という極小サイズの原子核を検出しなければならず、超高精度の分析装置が必要になります。ヘリウムガスを充填した曲がった空間に、身の丈ほどの巨大な電磁石で磁力をかけ、毎秒2兆4000万個にのぼる生成粒子を約10個だけふるい分けて半導体検出機に導く装置「GARIS(ガリス)」(気体充填型反跳分離機)の総重量40~50トンの

その佇まいは圧巻で した。



GARIS

域の到達にも挑戦するとのことで、夢はどんどん広がります。令和に新たな発見はあるのか、楽しみですね。

教育相談連載

怒りの根つこにある傷

こみ上げてきて、平静ではいられなくなるようです。

教育相談部 客員研究主事 舘野 智子

「イライラが止められない」「何をやっても自信がもてない」「時折、怒りが爆発し、後から罪悪感でいっぱいになる」。程度の差はあっても、私たちは悩みを抱えながら生きています。つらい感情にとらわれ

た時、誰かを責めたり、忘れようと試みたりしても簡単にはおさまってくれません。 その感情の根っこにある自分自身の傷つきを見つめ、傷を癒やしてあげることが大切な場合もあります。

不登校気味の小4女子をもつお母さんから、「娘が『学校に行きたくない』と言うと、口では『いいよ』と言いながら、心の中では許せないんです」と相談を受けました。このお母さんは、勉強もスポーツもよくできる兄と比べられて育ちました。兄のようには親から認めてもらえないため、悲

しかったし、親への怒りを感じながらも努力し続けました。そうしないと、親の愛情を得られないと思ったからです。今も、「よい母親」と周囲から認めてもらえているかが気になり、娘さんの調子が悪いと怒りが

こみ上りてきて、平耐ではいられなくなるようです。 お母さんは、「成績のよくない自分」「運動が苦手 な自分」「不真面目な自分」などを「ダメな自分」と

否定してきました。そんな信念や価値観に反する他者

に出会うと、怒りや軽蔑がわき上がるのです。何度かカウンセリングを重ね、自らの生い立ちを振り返るうちに、お母さんは、親への怒りが形を変えて娘さんに向けられていることや「こうあるべき」という自分の思いに縛られていることに気付きました。傷ついてきた幼い頃の自分に「よくやってきたね」と声を掛けられるようになって、娘さんにも穏やかな気持ちで接ることができるようになりました。

ネガティブな感情を感じるのは怖いものです。だからといって、怒りや憎しみ、寂

しさなどを無理に抑え込んでいると、心身の不調に結びつくことがあります。時には、心にある本音に静かに耳を傾け、前に向かっている自分に優しくしてあげてください。

